

第34号

# 奈良 国立博物館 だより

平成12年 7・8・9月



## 特別展観

文化財保護法50年記念

### 国宝 中宮寺菩薩像

東新館

8月8日(火)～8月22日(火)

## 親と子のギャラリー

### お釈迦さま誕生

東新館

9月2日(土)～10月1日(日)

## 特別出陳

### 薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

## 特別出陳

### 唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

## 平常展

### 仏教美術の名品

本館・西新館

#### 【写真解説】

国宝 菩薩半跏像（中宮寺）

日本最古の尼寺の伝統を維持する斑鳩中宮寺の本尊として千三百数十年にわたり尼僧の祈りに護られて来た国宝菩薩半跏像は、飛鳥仏究極の美を示すもので、それは像の側面から背面に至ってはじめて実感することができます。今回の特別展観は国宝菩薩半跏像を初めて全方向から公開展示するものです。



## 特別展観

### 文化財保護法50年記念

### 国宝 中宮寺菩薩像

東新館 8月8日(火)～8月22日(火)

日本最古の尼寺の伝統を維持する中宮寺の本尊として、千三百数十年にわたり尼僧の祈りに護られてきた国宝菩薩半跏像は、世界最古の寄木彫刻であるとともに、飛鳥彫刻の完成された美を示す名作として広く知られています。特にその美しさは柔らかな微笑みと頬に触れる微妙な指先に集約され多くの人々を魅了してきましたが、今では菩薩像の聖らかな横顔を拝観することは普通では難しくなっています。菩薩像は正面性を重視して発達して来た飛鳥彫刻のなかにあって、側面や背面にも完成された造形が実現され、まさに飛鳥彫刻が到達した究極の美を見ることができます。この特別展観は、中宮寺の特別なご協力のもと、菩薩像をはじめて全方向から鑑賞できるように展示するものです。

今年8月は法隆寺金堂壁画の焼損を教訓として文化財保護法が施行されて50年を迎えます。この展覧会はそれを記念するもので、法隆寺と同じく聖徳太子によって建立された中宮寺の国宝本尊像をはじめとする文化財の全貌を公開し、新しい世紀に向けての文化財の伝承についての認識を新たに作る機会になればと思います。



●天寿国繡帳（中宮寺）

## 特別陳列 親と子のギャラリー お釈迦さま誕生

東新館 9月2日(土)～10月1日(日)

釈尊の誕生日とされる4月8日には、愛らしいすがたをした誕生仏に甘茶を注ぐ灌仏会（花まつり）が各地のお寺で盛大に行われます。この行事はたいへん長い歴史をもち、わが国には古代以来の誕生仏がたくさん残っています。また、さまざまな伝説に彩られた誕生前後の物語をあらわした彫刻や絵画も、アジア各地でたくさんつくられました。この展示では釈尊誕生にかかわる名作のかずかずを、わかりやすい解説をつけて陳列します。偉大なる仏教の開祖によせられた人々の尊敬の念を、楽しみながら感じとっていただけたらと思います。

### 【主な出展品】

石造仏伝図浮彫〈ガンダーラ〉（当館）、●銅造誕生釈迦仏立像、●銅造灌仏盤（以上東大寺）、●銅造誕生釈迦仏立像（正眼寺）、●銅造誕生釈迦仏立像（悟真寺）[写真]



◎誕生釈迦仏立像（悟真寺）

## 特別出陳 薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

薬師寺には、有名な金堂本尊の薬師三尊像（国宝）のほかに、もう一組の巨大な薬師三尊の銅像が講堂に伝わっています。西新館では、近年完了した修理によって、かつての威容を取り戻したこの三尊像をご覧いただけます。堂々たる古代ブロンズ彫刻の美をぜひ再発見して下さい。

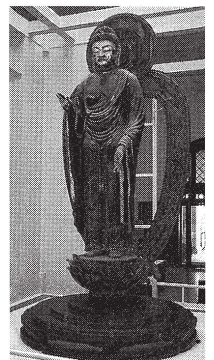


◎薬師三尊像（薬師寺）

## 特別出陳 唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

本館中央の第1室に唐招提寺金堂の薬師如来立像（国宝）が展示されています。台座をいれると5メートルを超える姿は、圧倒的な迫力をもっており、奈良時代の仏教美術がもつ雄大さを感じさせます。寺外で公開されるのは今回が初めてであり、本像を四方から鑑賞することができる絶好の機会です。



◎薬師如来立像（唐招提寺）

## 平常展 仏教美術の名品

本館・西新館

平常展は本館と西新館の二個所で行われています。本館では飛鳥時代から鎌倉時代にいたる日本の仏教彫刻の名品、その源流であるインドや中国などの彫刻も展示しています。西新館では仏教美術を考古・絵画・書跡・工芸のジャンルに分けて展示しており、本館とあわせて仏教美術の精髓をこころゆくまでご鑑賞いただけます。



特別展観 文化財保護法50年記念 国宝 中宮寺菩薩像 東新館

●菩薩半跏像、●天寿国繡帳、●上宮聖徳法王帝説(知恩院)、旧伽藍地出土瓦、塔心礎出土品、◎文殊菩薩像(紙製)、聖徳太子二歳像、絹本着色両界種子曼荼羅、刺繡阿弥陀三尊来迎図、密教法具〈金剛盤・五鈷鈴・火舎・六器・飲食器・花瓶・灑水器・塗香器・孔雀文磬〉、扁額、信如願文、靈山院年中行事、◎瑜伽師地論卷第三十二・第七十六、中宮寺勸進帳、表御殿障壁画〈花鳥図襖・吉野龍田図襖〉、源氏物語図屏風、後奈良天皇宸翰、後水尾天皇宸翰、後西天皇宸翰、靈元天皇宸翰、慈雲院宮御遺書、慈心院宮懷紙、御調度類〈火鉢・襖・鏡台・書見台・色紙箱・硯箱・手拭掛・琵琶・御茶弁当・菓子重〉、幡・打敷

特別出陳 本館

●木心乾漆薬師如来立像(唐招提寺金堂安置)

特別出陳 西新館

◎銅造薬師三尊像(薬師寺講堂安置)

平常展「仏教美術の名品」

本館

第1室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ●乾漆舍利弗・目犍連立像、●乾漆緊那羅立像(以上興福寺)、●銅造誕生釈迦仏立像、●銅造灌仏盤(以上東大寺、8/6まで)

第2・3室 平安・鎌倉時代の彫刻 ●木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造阿弥陀如来立像(裸形阿弥陀)(浄土寺)、◎木造増長天立像、◎木造多聞天立像(以上当館)、◎木造広目天立像、●木造行賀坐像(以上興福寺)●木造薬師如来坐像(当館、8/8から)

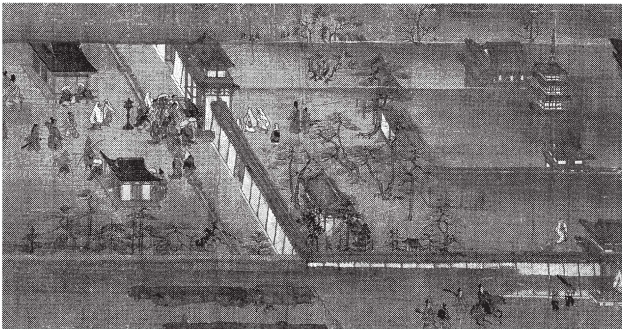
第4～6室 ガンダーラ・中国・韓国の彫刻 〈ガンダーラ〉石造如来立像、石造菩薩立像(以上個人)、〈中国〉石造如来頭部〈雲岡〉(個人)、〈韓国〉銅造如来立像(当館)

第7～13室 日本彫刻の諸相 ◎木造十一面観音立像(海住山寺)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造伎楽面・力士(東大寺)、◎同・力士(神童寺)、木造舞楽面・崑崙八仙(当館)、◎銅造菩薩立像(金剛寺)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、◎木造釈迦如来立像(清涼寺式)(当館)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造十二神将立像(辰・未)(室生寺)、木造如意輪観音坐像(当館)、◎銅造蔵王権現立像(大峯山寺)、●木造八幡三神像(薬師寺)[写真]、木造伊豆山権現立像(当館)、◎銅造阿弥陀如来立像(善光寺)、◎木造増長天立像(称名寺)、●板彫十二神将立像(波夷羅・珊底羅)(興福寺)、◎木造地藏・龍樹菩薩坐像(当館)

西新館

【絵画】～7/16◎釈迦八相図(大福田寺)、◎仏涅槃図(正暦寺)、◎釈迦三尊像(頼久寺)、普賢十羅刹女像(能満院)、◎十六羅漢像(長寿寺)、法華経曼荼羅 第一・二幅(当館)、両界曼荼羅(西大寺)、法華曼荼羅(下部神社)、◎一字金輪曼荼羅(当館)、◎五大虚空蔵像(大覚寺)、◎行基菩薩行状絵伝(家原寺)、◎善導大師像(知恩寺)、真宗八高僧像(瀧上寺)、◎法然上人行状絵(奥院)、善恵上人絵(浄橋寺)、◎遊行上人絵(光明寺)、 7/18～8/6馬頭観音像(西大寺)、◎千手観音像(金峯山寺)、◎千手観音像、如意輪観音像(以上当館)、◎十一面観音像(能満院)、楊柳観音像(円生院)、楊柳観音像(談山神社)、◎華嚴五十五所絵(観自在菩薩)(東大寺)、◎阿弥陀五尊像(一乗寺)、◎仏涅槃図 陸信忠筆(当館)、◎十六羅漢像(宝厳寺)、釈迦三尊十六羅漢図(東大寺)、釈迦十六羅漢図(家原寺)、●六道絵 等活地獄・衆合地獄(聖衆来迎寺)、◎阿弥陀如来像(西教寺)、◎阿弥陀四十九化仏来迎図(光明寺)、◎当麻曼荼羅(長谷寺)、●一遍聖絵 巻第一・二(清浄光寺・歓喜光寺)[写真] 8/8～9/10◎仏涅槃図(長命寺)、◎釈迦三尊像、釈迦五尊十羅刹女像、法華経曼荼羅 第三・四・五幅(以上当館)、◎十六羅漢像(宝厳寺)、◎当麻曼荼羅(西教寺)、◎観経十六観想図(阿弥陀寺)、◎当麻曼荼羅縁起(当麻寺)、◎阿弥陀三尊来迎図(心蓮社)、◎阿弥陀聖衆来迎図(松尾寺)、◎阿弥陀聖衆来迎図(迅雲来迎)(西教寺)、◎阿弥陀来迎図(宝厳寺)、二河白道図(薬師寺)、◎尊勝曼荼羅、◎十二天像(以上当館) 9/12～10/9◎仏涅槃図(剣神社)、◎十六羅漢像(建仁寺)、法華経曼荼羅第六・七幅(当館)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎地藏十王図(永源寺)、◎十王図 陸仲淵筆(当館)、◎阿弥陀聖衆来迎図(阿日寺)、◎釈迦阿弥陀発遣来迎図(雲辺寺)、◎四聖御影(東大寺)、聖徳太子絵伝(談山神社)、●一遍聖絵 巻第三(清浄光寺・歓喜光寺)

【書跡】～7/16◎星尾寺縁起、◎高弁夢記(以上高山寺)、◎神護寺如法執行問答、神護寺交衆任日次第、諸菩薩求仏本業経(五月一日経)(以上当館)、◎大般若経(魚養経)(薬師寺)、紺紙金字法華経巻第七(興聖寺)、紺紙金字法華経巻第七、大般若経巻第一百七十四(快門一筆経)、大般若経巻第四百二(源豪一筆経)



●一遍聖絵 巻二 (清浄光寺・歓喜光寺)



●僧形八幡像  
(八幡三神像のうち)(薬師寺)

(以上当館)、般若心経(海住山寺)、版本大般若経巻第三百六十五(当館) 7/18～8/6◎門葉記、叡山拝堂記、不動護摩次第、◎色紙法華経、◎紺紙金字一字宝塔法華経(以上当館)、●一字蓮台法華経(龍興寺)[写真]、◎法華経序品(竹生島経)(宝厳寺)、◎法華経(長谷寺) 8/8～9/10◎唐人送別詩並尺牘、◎国清寺外求法惣目録、◎太政官給公驗牒(先本)(以上園城寺)、◎大般若経(長屋王願経)(見性庵)、華手経巻第十二(五月一日経)(当館)、海龍王経(海龍王寺)、◎増一阿含経巻第五十(善光朱印経)(薬師寺)、紫紙金字法華経、法華経巻第二(当館)、◎大般若経(七寺)、大般若経(長弓寺) 9/12～10/9◎泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)、◎大福田寺勸進状(大福田寺)、◎類秘抄(当館)、瑜伽師地論巻第十六(五月一日経)(個人)、大般若経(東明寺)、●紺紙金銀交書大般涅槃経巻第十二(中尊寺経)(金剛峯寺)、紺紙金字金剛三昧経(神護寺経)(当館)、無量義経(禅林寺)、大般若経巻第四百七(東大寺八幡経)(当館)、大般若経(海住山寺)、阿毘達磨品類足論巻第七(足利尊氏願経)(当館)

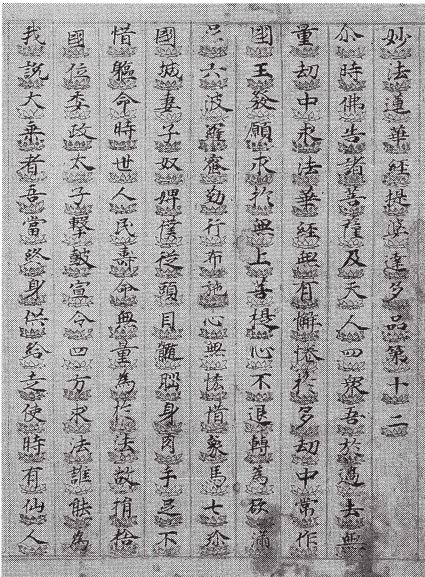
【工芸】7/18～8/6◎金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、金銅三角五輪塔(浄土寺)、◎密教法具(厳島神社)、●蓮唐草蒔絵経箱(当館)[写真]、◎孔雀文戱金経箱(浄土寺)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、百万塔及び無垢浄光経陀羅尼、錫杖頭、◎宝相華文如意、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵、五鈷鈴、塔鈴、(以上当館)、◎独鈷鈴、◎三鈷鈴(以上個人)、◎宝珠鈴(個人)、鏡(円福寺)、孔雀文磬、黒漆磬架、黒漆三脚卓、金銅火舎、金銅花瓶(以上当館)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、尾長鳥唐草文華鬘、種子華鬘、龍頭水瓶、(以上当館)、金銅透彫幡(個人)、梵鐘(海住山寺)、◎梵鐘(当館)、●桐蒔絵手箱(熊野速玉大社)、ほか正倉院宝物模造 8/8～9/10黒漆金銅装笈(当館)、黒漆金銅装笈(個人)、蔵王権現鏡像(当館)、男神对向鏡像(当館)、◎熊野十二社御正体(個人)、◎山王十社本地懸仏(当館)、◎入峯斧(当館)、◎三鈷剣(鞍馬寺)、◎三鈷剣(長谷寺)、◎宝相華文如意、手錫杖、錫杖頭三口(当館)、◎独鈷鈴、◎三鈷鈴、◎宝珠鈴(以上個人)、塔鈴、四大明王五鈷鈴、四天王五鈷鈴、種子五鈷鈴(以上当館)、◎三昧耶文五鈷鈴(金峯山寺)、宝相華文線刻蓮華形磬(赤松院)、◎鉦鼓(東大寺)、◎銅鉦鼓(手向山八幡宮)、◎銅罽口(長谷寺)、◎金銅琵琶(丹生都比売神社)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、百万塔及び無垢浄光経陀羅尼(当館)、◎金銅装戒体箱(金剛寺)、ほか正倉院宝物模造 9/12～10/9 刺繡種子阿弥陀三尊像、刺繡阿弥陀三尊来迎図(以上当館)、刺繡六字名号(宝鏡寺)、刺繡種子阿弥陀三尊像(大福田寺)、◎繡仏幡(当館)、刺繡阿弥陀如来像、刺繡種子阿弥陀三尊像、



●蓮唐草蒔絵経箱(当館)

◎千駄阿弥陀懸仏、◎熊野十二社御正体(以上個人)、◎山王十社本地懸仏(当館)、◎銅造十一面観音懸仏(長谷寺)、◎独鈷鈴、◎三鈷鈴、◎宝珠鈴(以上個人)、塔鈴、四大明王五鈷鈴、四天王五鈷鈴、種子五鈷鈴(以上当館)、◎三昧耶文五鈷鈴(金峯山寺)、金山寺形香炉(長谷寺)、和櫃(高山寺)、公驗唐櫃(当館)、◎仏餉鉢(都々古別神社)、ほか正倉院宝物模造

【考古】土偶(山形・杉沢遺跡出土)、深鉢形土器(伝茨城県出土)(以上当館)、銅鐸(妙国寺)、銅鐸(和歌山県日高郡南部川村出土)、北和城南古墳出土品、装飾付器台付子持壺須恵器、人物線刻装飾付子持壺須恵器(伝愛媛県北条市出土)(以上当館)、隅木蓋瓦(和歌山・上野廃寺出土)(当館)、◎鬼瓦(伝奈良・大安寺出土)(個人)、●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)[写真]、◎石製弥勒如来坐像(長崎・鉢形嶺経塚出土)、◎伝福岡県出土経筒付金銅如来形立像、◎伝福岡県出土銅製経筒、滑石製外筒(以上当館)、◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、紙本朱書法華経(伝大分県出土)(当館)、◎銅板経(大分・長安寺経塚出土)(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、泥塔経(鳥取・智積寺経塚出土)、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉緑彩水注、青磁双耳瓶、青白磁水注、青白磁花唐子文輪花鉢、青白磁花唐子文鉢(以上当館) 7/4～8/6和歌山・粉河経塚出土品、陶製経筒(伝愛媛県北条市出土)(以上当館) 8/8～経塚遺物(伝近畿地方出土)(銅製経筒・陶製外筒断片・鉄製大刀・和鏡・青白磁合子)、紙本墨書法華経(和歌山・粉河経塚出土)(以上当館)



●一字蓮台法華経(龍興寺)



●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)





## 国宝・唐招提寺金堂薬師如来像の運搬（報告）

唐招提寺金堂の修理工事にともない、堂内安置の三軀の巨像のうち、国宝木心乾漆薬師如来立像を当館に  
お預かりし、4月4日より本館第1室において展示公開させていただいている。

像本体だけで3.6メートル、台座と光背を入れると6メートル近い巨大な彫像である。このような巨像の  
運搬に関わるのは初めての経験であった。当然、綿密な計画と最大の注意を必要とすることが予測されたが、  
時間の制約もあり、反省点が皆無というわけではない。

作品の構造については、大正7～8年に行われた修理時の記録により、  
ある程度のことは知ることができた。木心乾漆造ではあるが、木心部には空洞部があること。像内から下方へ伸びる長大な丸柄がかかとを貫き、  
さらに蓮華座の中央を通して須弥壇上地付に達しており、これを框の内部で四方から井桁状に組んだ材で固めて像の安定を保持していること  
などである。またこの柄は台座内部で太くなり、くわえて補強のため前後に半月形の材を打ちつけているため、蓮華から柄を抜くことは無理で、  
像本体と蓮華および束までを同梱し、反花以下の框座および光背を別  
梱包することとした。

輸送に先立つ事前調査の際、像内の空洞部はかなり深いことがわかった。いかえると像の肉厚が薄いということである。このため、実際の  
輸送を担当してもらった日本通運の作業責任者の発案で、綿やウレタンのほかに割竹を張りめぐらすことによって、吊り上げ時に像にかかる締め  
付けの力に抗しよう工夫することとなった。結果的に、この試みはうまくいったと思う。ただ、割竹の長さや張りめぐらす密度は一定で  
はなく、像表面の形態に応じて、場所によって、より細かに変化をつけることが望ましいだろう。

これほどの大像になると人力では持ち上がらないので、充分に緩衝材を用いて梱包したのち、ナイロン製の  
ロープをかけ、これをまわりに組んだ門型の鉄鋼に取り付けたチェーンブロックで吊り上げるのであるが、  
このロープをかける場所も問題である。手先や袖先、裳先などの突起部が一番かけやすく、滑って抜ける心配  
もないのだが、いずれも別材を刳ぎ付けているため強度的に無理があり、まず使えない。今回は像の両足  
の間を主たる力点とし、さらに表面にナイロン製のネットを張りめぐらせ、これをできるだけ多くの箇所  
で吊ることにより、力の分散をはかった。

約2週間をかけて像の点検と梱包をおこない、搬出予定日を迎えた。幸い、当日はこれ以上は望みよ  
うのない晴天に恵まれた。巨像ゆえに輸送トラックも無蓋車を用いざるをえず、雨であれば自動的に搬出は延期  
しなければならなかったところである。

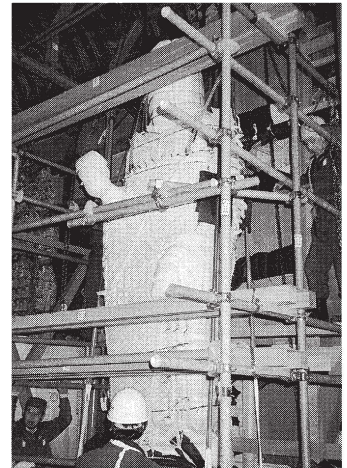
博物館の本館は明治27年（1894）に竣工した国指定の建造物だが、東西の入口には後に取り付けた鉄製の  
扉がある。今回は東口のこの鉄扉と、さらに付帯するエントランスの北側ガラス扉を一時解体し、ようやく  
作品を搬入することができた。この搬入作業は手作業とならざるをえなかったが、最も重く、またもっとも  
かさ高く扱いが困難であったのが、大正7～8年の修理時に新補された框座であったのは皮肉である。

上記の門型を展示室内にも組んで像を立ち上げ、本像のために設置した免震台上に無事安置できた。輸送  
前の点検時、螺髪（らっぽう）のいくつかがゆるみ、脱落の危険のあることが知られたが、幸いひとつの螺髪も外れるこ  
となく、また当然のことだがその他の部位にも損傷はなかった。

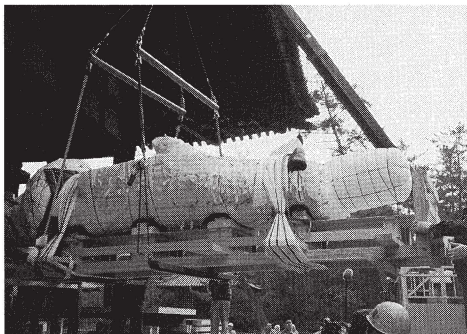
本像が背負う光背は他像からの転用とみられるが、時代的には像本体にほど遠からぬ古いものである。自  
立することができず、金堂内では光背裏の5ヶ所に打った鉄鑢（かん）に長い鉄棒を引っ掛け、これを堂後壁の建築  
材に固定していた。今回は像が免震台に乗ったため、光背も免震台に固定する必要が生じ、台上に立てた鉄

製の支柱に上記の鑢を用いて連結することとした。したがって周囲に組み上げた厨子風の展示ディスプレイは作品とは切り離されている。もちろん、万一の地震時にこれが像の上に崩れ落ちては元も子もない。展示・照明効果を考えて天井部を吹き抜けとしたが、構造的に脆弱とならないよう、長押状の材や欄干等を入れ、強度に配慮したつもりである。

以上、本像運搬の顛末を粗描風に述べてみた。いうまでもなく、唐招提寺当局や、文化庁美術工芸課、奈良県教育委員会ほか関係各位のご指導・ご助力をえてはじめて可能な作業であった。文末ながら記し、貴重な体験をさせていただいたことを感謝したいと思う。



像本体の梱包完了



堂外への搬出（像本体）

（主任研究官 岩田 茂樹）



## ◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

7月12日(水) 経典を飾る工芸を中心に

工芸室長

内藤 榮

8月9日(水) アジアを結ぶ仏像の道

仏教美術研究室長

松浦正昭

9月13日(水) 古代の埴と埴伝

企画普及室研究員

高橋照彦

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

## ◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「鎌倉時代の歴史と美術」(第3クール)をテーマに勉強します。

7月8日(土) 鎌倉時代の工芸/9月9日(土) 鎌倉時代の絵画/10月14日(土) 鎌倉時代の書跡/12月9日(土) 現地見学(蓮華王院〈三十三間堂〉)/平成13年1月13日(土) さまざまな塔のかたち/2月10日(土) 「鎌倉時代の歴史と美術」のまとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学科金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

## ◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。

解説は、開館日の10:00～ 11:00～ 14:00～ 15:00～ の4回(約30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組み合わせることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説をします。

お問合せは学習普及専門官(電話0742-22-7008)まで。

**開館時間** 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

**休館日** 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。ただし順延あり)  
(ただし、中宮寺菩薩像展の期間中は無休)

**観覧料金** 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料。8月14日(月)・8月15日(火)は無料観覧日

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。

※特別展観・特別陳列は平常展料金でご覧いただけます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331  
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>

**奈良国立博物館**